

# 南海トラフ地震に備えよう！

令和6年1月1日、石川県の能登半島でマグニチュード7.6、最大震度7の大地震が発生し、北海道から九州にかけ、広い範囲の揺れを観測しました。

能登半島を中心に多くの建物が倒壊し、大規模火災の発生、道路が寸断され集落は孤立するなど、目を追うごとに甚大な被害が明らかになりました。

南海トラフ大地震もいつ発生するか分かりません。日頃の備えが必要です。

## ◎ 地震や津波への備え

南海トラフ地震が発生すれば、本県沿岸には、早い所で3分程度、遅い所でも30分程度で津波の到達が予想されています。

地震、津波はいつ起こるか分からず、防ぎようのない自然現象ではありますが、防災に対する正しい知識を身に付け、「いざ」というときに慌てず適切な行動がとれるようにしておくことが大切です。

## ～ 地震発生時の行動 ～

### ① まずは、落ち着いて行動しましょう

緊急地震速報を認知すれば、揺れが発生するまで僅かな時間があります。

屋外では家や塀、ガラス窓、電柱・電線から、屋内ではガラス窓、落下物のおそれのある場所から離れ、姿勢を低くして動かず、頭を守ることを意識しましょう。

※緊急地震速報は震源近くであれば間に合わないこともあります。

### ② 火の始末は、無理をせずに

使用中のガス等の火気は素早く消しましょう。ただし、すぐに消火できない場合は無理をせず、揺れが収まってから火を止めるようにしましょう。

### ③ 津波からの素早い避難

大きな揺れが収まったら、沿岸地域の方は津波から逃れるため、津波警報等の発表を待たずに、すぐにできるだけ高い避難場所に避難しましょう。

### ④ 避難した後の行動

津波は繰り返し襲ってきます。

東日本大震災でも、沿岸部に様子を見に行った人が津波にさらわれて命を落としています。

津波警報が解除され安全が確認できるまでは避難場所から離れず、自宅に引き返さないようにしましょう。

～ 日頃からの備え ～

① 家庭での防災会議(自助)

日頃から、大地震発生時の行動について家庭内で確認し、

- ・ 非常持出袋のある場所
- ・ 避難場所・避難経路
- ・ お互いの連絡方法

等を決めておきましょう。

② 隣人との連携(共助)

日頃から、積極的な近所付き合いを行い、大地震発生時にはお互いで助け合い、避難することができるような関係を作っておきましょう。

③ 防災訓練への参加

県や市町村、自主防災組織等が行う防災訓練に積極的に参加して、消火・救助活動、避難経路と避難場所の確認等防災行動力を身に付けましょう。

④ 住宅の耐震診断・耐震補強と家具等の固定

過去の大規模災害の犠牲者の7割から8割程度は、住宅等の倒壊による圧死でした。

これを教訓として、住宅の耐震補強と転倒のおそれのある工作物の補強、大きな家具類等の固定をしておきましょう。

⑤ 非常持出袋等の準備

避難する際に落下物や割れたガラスで怪我を負うことを防止するため、すぐに持ち出せる場所にヘルメットと運動靴等を準備しておきましょう。

※ 非常持出袋に入れておくべき最低限必要なもの

『ライト、携帯ラジオ、現金(小銭)、救急薬品、服用中の薬、保険証の写し、貴重品、食料、水』等

## 日頃の大規模災害に対する備え

### 家族や自らの命を守るための準備行動

#### ➤ 避難場所・避難経路の確認

- 避難場所、避難場所までの所要時間
- 避難経路に倒壊しそうな建物等はないか



#### ➤ 家族等との連絡方法

- 連絡用の貼紙をする場所を決めておく
- 公衆電話の場所を確認
- 『災害用伝言ダイヤル（171）』の使い方を確認



#### ➤ 食糧の備蓄（最低3日分）

- 最低3日分の食糧（長期の避難に備えて7日分の備蓄食糧があれば安心！）

※水（1人1日3ℓは必要）、缶詰、インスタント食品等



#### ➤ 生活必需品の備蓄

- ラジオ、ライト(電池は別保管)、携帯電話充電器、ビニールラップ(止血にも使える)トイレットペーパー、ろうそく、紙おむつ、粉ミルク、おもちゃ(子供が安心)など・・・



#### ➤ その他

- 満タン給油
- 非常袋の中に、免許証と健康保険証のコピーを入れておく



～東日本大震災でも役に立ったことばかりです～

## 住宅の耐震化のすすめ！

○ 平成7年の阪神・淡路大震災において亡くなった方の大多数は、老朽化した建物が揺れに耐えきれず倒壊した影響によるものです。  
(神戸市:3651人のうち95%以上)



住宅の耐震化を行っていただければ**多くの方の命が助かっていた**可能性がある…



**◎ 昭和56年5月以前に建築された住宅には、耐震化のための補助金があります！**

木造戸建住宅の場合の制度

※ いずれも要件あり

### 耐震診断

自己負担  
3,000円以内

### 耐震設計

補助金  
20.5万円～  
例：耐震設計費が30万円の場合  
→自己負担額9.5万円

### 耐震改修

補助金  
92.5万円～  
例：耐震改修費が150万の場合  
→自己負担額57.5万円

※ 家具を固定する突っ張り棒やブロック塀等の安全対策（ブロック塀、除去）の補助事業を実施している自治体もありますので、各種要件等詳しくはお住まいの自治体へお問い合わせください。